

令和2年度
教育関係共同利用拠点事業（野辺山農場）
報告書

中部高冷地域における農業教育共同利用拠点
—高冷地野菜と畜産を組み合わせたフィールド教育—

令和3年3月

信州大学農学部附属アルプス圏
フィールド科学教育研究センター

はじめに

信州大学農学部附属アルプス圏フィールド科学教育研究センター（センター）は、フィールド科学の実践の場として、生物生産技術、環境管理技術、および生態保全管理に関する教育・研究を行い、野外活動に精通した学生の養成と農林生産や環境保全を通じた地域との交流、連携を積極的に進めることを目的に設置されました。センターは構内、野辺山、西駒および手良沢山の4ステーションの施設を有しており、平成29年の組織見直しにより、農場、演習林および野辺山の3部会で構成されるようになりました。

野辺山ステーション農場（野辺山農場）は、中部高冷地域、八ヶ岳山麓のふもと標高1,351mの野辺山高原に位置し、日本でも有数の高原野菜地帯です。この地域は首都圏からも短時間で訪れることができる大規模な高冷地・寒地型農業地帯でもあります。さらに、栽培圃場と周辺の生態系を一体として学習できる環境にある教育拠点は極めて貴重なフィールドです。野辺山農場は、文部科学省の平成25年度「教育関係共同利用拠点」に認定され、さらに、平成30年から5年間再認定されました。

令和2年度は新型コロナウイルス感染症発生に伴い、感染拡大防止の観点から、他大学・他学部の学生を対象とした公開実習を中止しました。また宿泊を伴う実習の受け入れを中止するなど、想定外の大きな影響を受けました。

利用学生は、食の生産現場を知り、食と環境に関する理解を深め、連作障害や地球温暖化等の問題の認識とその解決能力を高め、さらに自然や生命の尊さを感じ、豊かな人間性を育み、集団作業を通じて協調性等を養うことが期待できます。野辺山農場は、中部高冷地域フィールドを生かし、持続的な循環型農業および社会を目指す共同利用拠点に発展することが可能で、今後、非農学系、農学系の多様な大学の利用が増え、全国に広がる教育共同利用拠点に発展できることが期待されます。

令和3年3月

信州大学農学部附属アルプス圏
フィールド科学教育研究センター長

春日 重光

目 次

はじめに

1. 中部高冷地域における農業教育共同利用拠点の概要	
1) 野辺山ステーション農場の概要	2
2) 共同利用拠点事業の概要	5
3) 共同利用運営委員会	9
4) 施設利用環境整備に関する取り組み	10
2. 令和2年度開講演習等の概要	
1) 基礎力養成フィールド教育	12
共学型プログラム	①高冷地植物生産生態学演習
	②高冷地動物生産生態学演習
既設型プログラム	③高冷地生物生産生態学演習
2) 応用力養成フィールド教育	14
既設型プログラム	④高冷地応用フィールド演習
	⑤高冷地先端農業特別演習
注文型プログラム	⑥注文型応用演習
3) 他大学等の利用	・高崎健康福祉大学による利用
	・京都大学による利用
4) 他学部の利用	・理学部による利用
5) 学部内利用	・卒論研究および修士論文研究による利用
6) 利用実績	18
7) アンケート結果	・高冷地応用フィールド演習
	19
3. 参考資料	

1. 中部高冷地域における農業教育共同利用拠点の概要

1) 野辺山ステーション農場の概要

AFCの概要 ～恵まれた自然環境を生かした実践的教育研究の場

アルプス圏フィールド科学教育研究センター（AFC）は、附属農場、附属演習林および附属高冷地農業実験実習施設を統合して平成14年に農学部附属教育研究施設として新しく設立されました。AFCはフィールド科学の実践の場として、フィールドにおける生物生産技術および環境管理技術に関する教育・研究並びに広く地域社会の発展に寄与するための社会教育事業を行っています。

組織

AFCは農場、演習林、野辺山の3部会を含む組織（教員5名、施設係3名、技術職員8名、プロジェクト研究員（有期助手）2名、研究支援推進員（2名）と4施設（ステーション）を有しています。

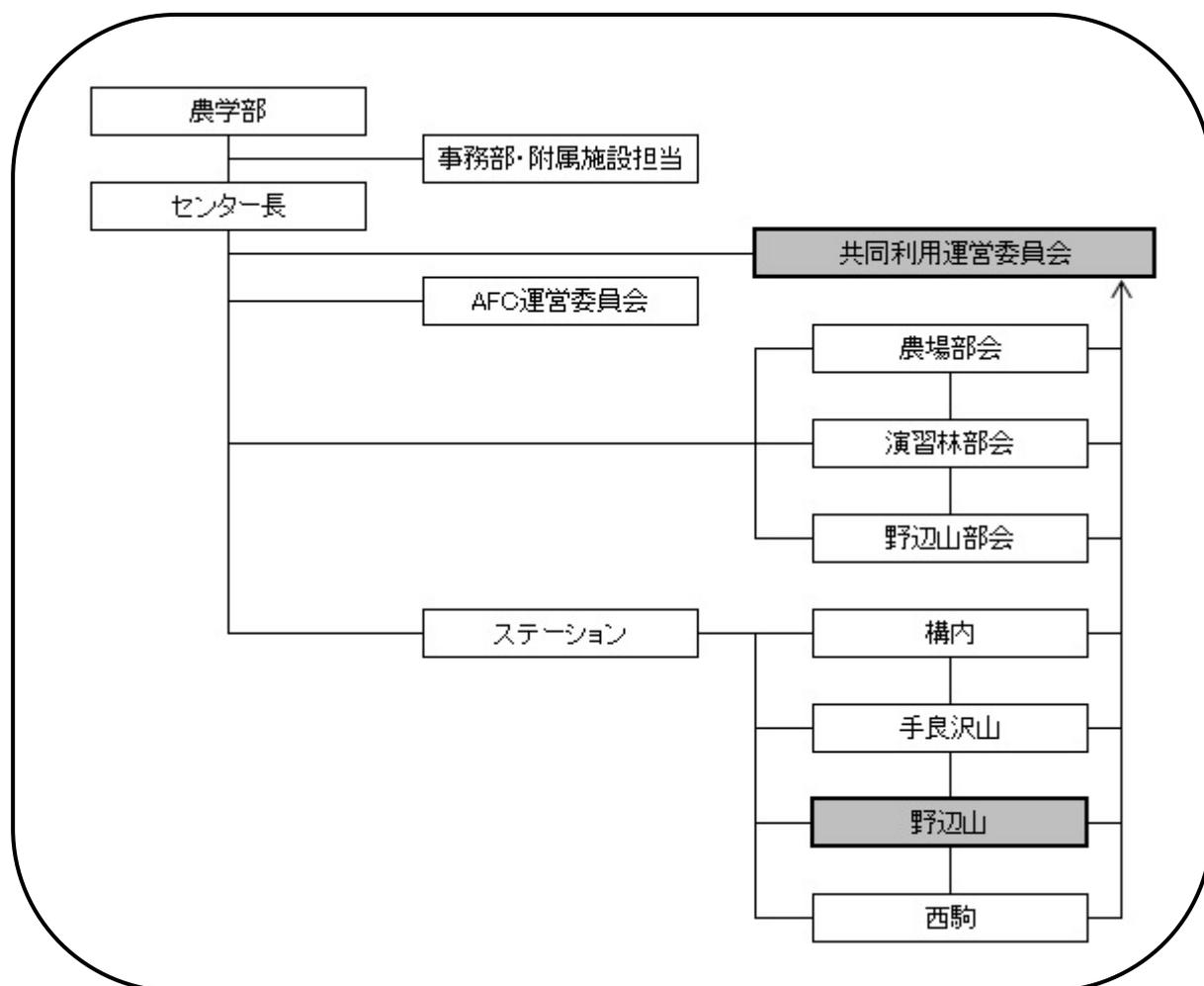


図1 アルプス圏フィールド科学教育研究センター組織体制及び共同利用運営体制

野辺山ステーションの概要

信州大学農学部野辺山ステーションは、学部の東約80km、八ヶ岳東山麓の野辺山高原（標高1,351m）に位置し、農場（19ha）と演習林（9ha）から構成されています。周辺一帯は高原野菜と酪農生産が活発であり、この条件を生かした環境保全型の高冷地農業の展開に関する教育・研究の推進を目的としています。学生に対しては宿泊実習による農業体験学習の場を提供し、また高冷地フィールドを活用した農業生産や生産環境に関する研究の場として、より一層の活用が期待されています。

野辺山ステーションの施設・設備

●宿泊施設

宿泊可能人数：最多90名（ただし男女比によって最大人数以下）

宿泊部屋数：1F 洋室4室（1部屋最多6名×4）、2F 和室5室（1部屋最多4名×5）、2F 洋室6室（1部屋最多8名×6）

洗濯室・乾燥室：男性用洗濯室・乾燥室、女性用洗濯室・乾燥室

シャワー室：男性用シャワー室、女性用シャワー室（各4ブース）

トイレ：男性用共同トイレ（1、2階）、女性用共同トイレ（1、2階）

厨房：宿泊者共用 自炊用品

食堂：宿泊者共用

インターネット環境：無線LAN

講義室：2室（最多30名、40名）

●施設内設備

高冷地農業実験室、農場農具室、畜舎、牛舎、収納舎、農具舎、植物遺伝資源等保存用種子庫（約8m²）、ビニールハウス

●主な栽培作物

キャベツ、ベニバナインゲン、ジャガイモ、ソバ、夏秋イチゴ、スイートコーン

●飼育動物

繁殖和牛（成雌牛）：約14頭

●主な機械・道具類

トラクター：3台、ブームスプレーア：1台、ロールベラー：1台、ロールベールラッパー：1台、ドリルシーダー：1台、マルチャー：1台、フロントローダー：2台、ホイールローダー：2台、バックホー：1台、テッダーレーキ：1台、プラウ：1台、サブソイラー：1台、穀実乾燥機：1台、マニアスプレッダー：1台、ブロードキャスター：1台、コンバイン：1台、ディスクモア：1台、ローター：1台、ストーンピッカー：1台、管理機：2台、ハンマーナイフモア：1台、ベールグラブ：2台、ライムソワー：1台、スプリングカルチ：1台、カルチパッカー：2台

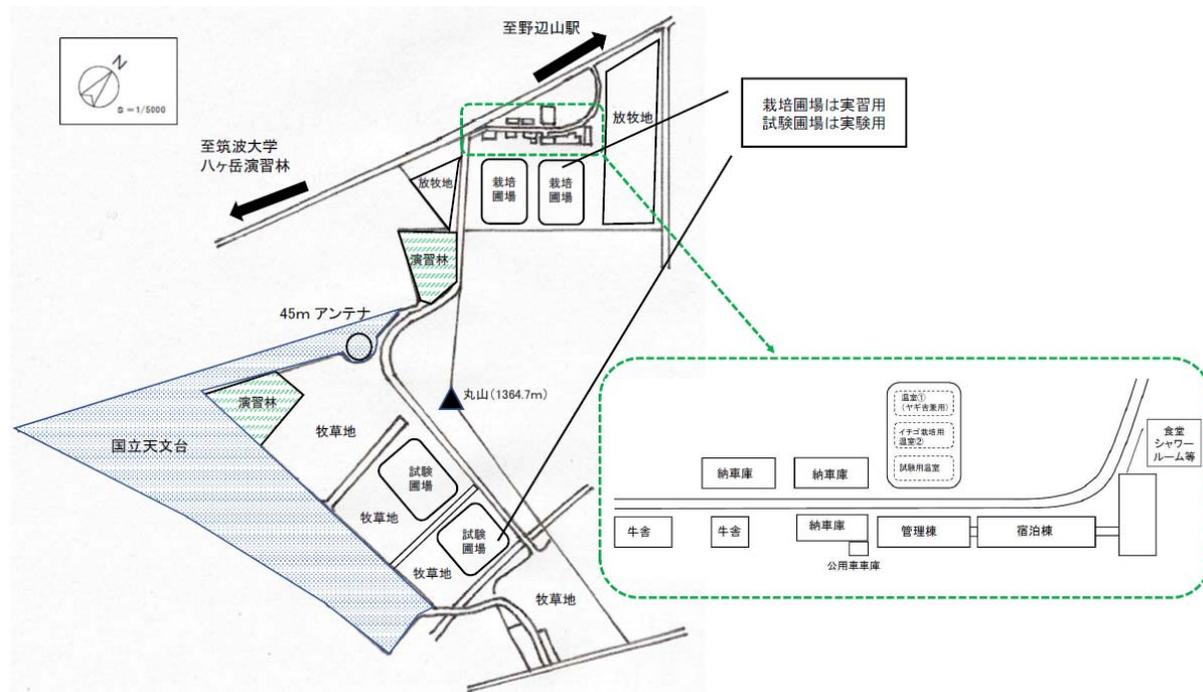


図2 AFC 野辺山ステーション全体図

2) 共同利用拠点事業の概要

事業目的

先端的な農業技術実習教育に向け、高冷地の野菜、作物および畜産を組み合わせた循環型農業に関する教育・研究および自然環境教育とその現場を教材として取り上げ、「食」や「環境」、「看護学」、「人文学」、「福祉学」など幅広い分野の他大学学生に実施することで、各分野の理解を深めるとともに、自然の恵みや命の営みの尊さなど豊かな人間性構築を目的とする。

事業概要

野辺山ステーション農場(以下「野辺山農場」という)は、中部高冷地域、八ヶ岳のふもと標高 1,350m の野辺山高原に位置し、日本でも有数の高原野菜産地であり、首都圏から短時間で訪れることができる大規模な高冷地・寒地型農業地帯である。さらに周辺の生態系を一体として学習できる環境にある。このような環境の中、キャベツを中心とする高原野菜、ベニバナインゲン等のマメ類およびソバの栽培、また、繁殖和牛の飼養と牧草の採草および放牧利用を行い、持続的資源循環型農業を目指し、教育研究および地域貢献活動に取り組んでいる。

取り組み内容

学生の習熟レベル、プログラム内容に応じて選択できる以下の7演習(①～⑦)を実施し、他大学へ提供する。

(1)基礎力養成フィールド教育

①②共学型プログラム(高冷地植物生産生態学演習、高冷地動物生産生態学演習)

本学農学部学生を主対象に開講している「高冷地植物生産生態学演習、高冷地動物生産生態学演習」(3泊4日、2回開催)を他大学非農学系学生、農学系学生も「共学」する演習として開講する。

③既設型プログラム(高冷地生物生産生態学演習)

他大学非農学系学生を主対象に、①②のプログラムを融合した「高冷地生物生産生態学演習」を、環境、生態演習も取り入れた既設型プログラムに基づく演習として開講する。

(2)応用力養成フィールド教育

④既設型プログラム(高冷地応用フィールド演習)

基礎力養成演習を習得した他大学農学系、非農学系学生を主対象に、安心安全な高冷地野菜生産の管理、収穫、流通等の6次産業化生産技術を習得できる高冷地応用フィールドを開講する(平成26年度に新設)。

⑤既設型プログラム(高冷地先端農業特別演習)

修士課程の学生を対象に、小型無人ヘリ(ドローン)を利用し、空撮画像の解析によっ

て大規模農地を対象にした効率的な生産情報の収集・評価を行うための基本技術を習得する「高冷地先端農業特別演習」を開講する（平成30年度に新設）。

⑥注文型プログラム（注文型応用演習）

他大学に、野辺山農場における「栽培暦（図3）」および「15の演習プログラム（表1）」等の情報を提供し、他大学の教員や学生からの相談に応じて「注文型のプログラム」を構築し、指導する。

(3)オープンフィールド教育（注文型プログラム）

⑦オープンフィールド（生産圃場の開放）

高冷地施設を利用できない他大学の教員と学生を対象に、卒業論文等の指導・作成に関わる試験研究圃場や研究課題の提供および野辺山農場隣接地域における野外研究について、フィールドレベルで指導、援助する。

図3 AFC野辺山農場の栽培暦

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
キャベツ	播種	定植	消毒・草とり	収穫	抜根・マルチ剥ぎ			堆肥施用・耕耘	
	施肥・マルチ張り								
ペニバナ インゲン	施肥・マルチ張り・ネットトンネル造り	播種	草とり	誘引		収穫	皮むき	堆肥施用・耕耘	
							ネットトンネル解体・マルチ剥ぎ		
ソバ	堆肥施用・耕耘		播種			収穫・乾燥・調整			

表1 対応可能な15の演習プログラム

No	プログラム	所要時間	実施可能時期	概要
1	高原野菜の管理	180分	春夏秋	キャベツ、白菜などの高原野菜の収穫以外の管理
2	高原野菜の収穫	180分	夏秋	キャベツ、白菜等の高原野菜の収穫、出荷
3	マメ、ソバ類の栽培、管理	180分	春夏秋	ベニバナインゲンの定植、収穫、選別、ソバの調整
4	野辺山の野生生物の観察、調査	180分	春夏秋	昆虫を中心とした野辺山の野生生物の観察、調査
5	八ヶ岳の野生生物の観察、調査	180分	春夏秋	八ヶ岳、および周辺の高原の野生生物の観察、調査
6	高冷地（野辺山）農業の調査	180分	春夏秋	野辺山、川上村の農業、野菜農家の調査、出荷場の見学
7	マメ、ソバの加工、利用	180分	夏秋	ベニバナインゲンの調整、加工、ソバの加工、試食
8	肉用牛の飼養管理	180分	春夏秋冬	肉用牛の飼養管理、放牧地の管理
9	乳用牛の飼養管理 ※他施設を利用した実習のため別途料金がかかります	180分	春夏秋冬	乳用牛の飼養管理、子牛の管理、搾乳体験
10	牛舎管理 ※他施設を利用した実習のため別途料金がかかります	180分	春夏秋冬	肉用牛舎管理、乳用牛舎管理
11	飼料作物の栽培、管理	180分	春夏秋	飼料作物の播種、管理、調整、保存
12	畜産物の加工、利用 ※他施設を利用した実習のため別途料金がかかります	180分	春夏秋冬	バター作り、牛乳加工施設見学
13	夏秋イチゴの栽培管理	180分	夏秋	夏秋イチゴの栽培、収穫管理
14	ヤギの飼養管理	180分	春夏秋冬	ヤギの飼養管理
15	農家・牧場作業	180分	春夏秋冬	酪農家、牧場における乳用牛の飼養管理

実施体制

共同利用拠点としての教育の実施責任者は、信州大学農学部附属アルプス圏フィールド科学教育研究センター長とし、共同利用の運営は共同利用拠点運営委員会が担う。

実習等の共同利用拠点事業の取り組みは、5名の教員、1名の助手、8名の技術職員・技能補佐員、3名の事務系職員、および学務担当事務系職員（3名）により実施する。

広報活動

共同利用の促進と利用者の利便性向上のため、ホームページから利用申請を行えるようにした。その他、Q&Aの掲載や施設利用予約状況の確認もできるように AFC ホームページの充実を図った。

例年、公開実習募集はホームページへの情報掲載の他、利用が見込まれる大学へメールや郵便により案内を送付しているが、本年度は新型コロナウイルス感染症発生の影響により、他大学・他学部からの募集を中止したため、高冷地応用フィールド演習を除き案内を送付しなかった（高冷地応用フィールド演習は参加募集送付後、他大学・他学部からの募集を中止した）。

3) 共同利用運営委員会

共同利用運営委員会は、それぞれ学内委員（センター長、農場主事、野辺山の主事、教員1名）および学外委員（他大学等の有識者4名）で構成する。

※平成29年10月、細則の改定により、学外委員(他大学等の有識者)が、4名から5名に変更となった。

共同利用運営委員会委員名簿

所 属	役 職	氏 名
東京農業大学 農 学 部	教 授	馬 場 正
佐 久 大 学	学 長	堀 内 ふ き
山 梨 大 学 生 命 環 境 学 部	准 教 授	山 下 裕 之
長野県野菜花卉試験場	場 長	山 口 秀 和
南 牧 村	村 長	大 村 公 之 助
信 州 大 学 農 学 部	A F C 長	春 日 重 光
信 州 大 学 農 学 部	農 場 副 主 事	今 井 裕 理 子
信 州 大 学 農 学 部	農 学 部 准 教 授	荒 瀬 輝 夫
信 州 大 学 農 学 部	農 学 部 准 教 授	松 島 憲 一

4) 施設利用環境整備に関する取り組み

①アルコール消毒液の設置

正面玄関、トイレ、講義室等にアルコール消毒液を置き、利用者が随時手指消毒、除菌等を行えるようにした。

②コンポストの増設

昨年度は簡易的なコンポストの設置を行った。演習期間中の生ごみ廃棄による衛生上の問題や野生生物への影響を生じさせないように、今年度は更に2基増設した(写真1)。



写真1 令和2年度に設置したコンポスト

2. 令和2年度開講演習等の概要

1) 基礎力養成フィールド教育

共学型プログラム

基礎力養成フィールド教育の共学型プログラムとして、以下の2演習を計画・企画していたが、新型コロナウイルス感染症の拡大防止・感染予防の観点から、本年は他大学非農学系学生、農学系学生への募集を中止した。

①高冷地植物生産生態学演習

1. 実習目的

高冷地という特殊な環境下における農業について学び、持続可能な農業生産について考える機会を創出することが目的である。また、共同作業の重要性を知り、協調性を培う機会を創出することも目的である。

2. 実施予定日

2020年8月24日(月)～8月27日(木)

3. 実施場所

農学部附属 AFC 野辺山ステーション

4. 対象

本学農学部農学生命科学科植物資源科学コースの学生、他大学農学系・非農学系の学生

5. 担当教員

鈴木香奈子助教、春日重光教授、荒瀬輝夫准教授、今井裕理子助教

②高冷地動物生産生態学演習

1. 実習目的

高冷地という特殊な環境下において、畜産と高原野菜栽培の異なる2つの視点から持続可能な農業・食料生産について考える機会を創出することが目的である。また、共同作業の重要性を知り、協調性を培う機会を創出することも目的である。

2. 実施予定日

2020年8月31日(月)～9月3日(木)

3. 実施場所

農学部附属 AFC 野辺山ステーション

4. 対象

本学農学部農学生命科学科動物資源科学コースの学生、他大学農学系・非農学系の学生

5. 担当教員

春日重光教授、鈴木香奈子助教、今井裕理子助教

既設型プログラム

基礎力養成フィールド教育の既設型プログラムとして、以下の演習を計画・企画したが、新型コロナウイルス感染症の拡大防止・感染予防の観点から、本年は他大学非農学系学生、農学系学生への募集を中止した。

③高冷地生物生産生態学演習

1. 実習目的

高冷地という特殊な環境下における、持続可能な農業・食料生産について考える機会を創出することが目的である。また、共同作業の重要性を知り、協調性を培う機会を創出することも目的である。

2. 実施予定日

2020年9月7日（月）～9月10日（木）

3. 実施場所

農学部附属 AFC 野辺山ステーション

4. 対象

本学および他大学の農学系・非農学系の学生

5. 担当教員

春日重光教授、荒瀬輝夫准教授、鈴木香奈子助教、今井裕理子助教

2) 応用力養成フィールド教育

既設型プログラム

応用力養成フィールド教育の一環として、以下の2演習を計画・企画したが、新型コロナウイルス感染症の拡大防止・感染予防の観点から、本年は他大学非農学系学生、農学系学生への募集を中止した。

④高冷地応用フィールド演習

1. 実習目的

高冷地地域における園芸作物の栽培の実践を通してその栽培手法を学び、学生達が問題点や解決策について考えるチャンスを創出することを目的としている。

2. 実施日

第1回：2020年5月30日（土）

第2回：2020年6月13日（土）

第3回：2020年6月27日（土）

第4回：2020年9月9日（水）～9月11日（金）

3. 実施場所

第1回、第2回：農学部附属 AFC 構内ステーション農場

第3回、第2回：農学部附属 AFC 野辺山ステーション

4. 対象

本学および他大学の農学系・非農学系の学生

5. 担当教員

鈴木香奈子助教、春日重光教授、今井裕理子助教

⑤高冷地先端農業特別演習

1. 実習目的

小型無人ヘリ（ドローン）は、任意の時期や高度から鮮明な空撮画像を取得でき、大規模農地の観測に活用できる。空撮画像の解析によって、大規模農地を対象にした効率的な生産情報の収集・評価を行うための基本技術を習得する。ドローンの仕組み、撮影方法、画像解析、現地調査を行い、画像から読み取れる情報の精度を評価する。

2. 実施予定日

2020年8月22日（木）～8月24日（土） 2泊3日

3. 実施場所

農学部附属 AFC 野辺山ステーション

4. 対象者

本学および他大学の農学系大学院生

5. 担当教員

渡邊 修准教授、鈴木香奈子助教

注文型プログラム

⑥注文型応用演習

新型コロナウイルス感染症の影響により、県外からの学生の受け入れ、宿泊施設の利用受け入れを中止したことから、本年度の実施はなかった。

3) 他大学等の利用

■高崎健康福祉大学による利用

高崎健康福祉大学がベニバナインゲン在来系統に関する研究のための試料採取を目的として利用した。

1. 利用目的

ベニバナインゲン在来系統に関する研究のための試料採取

2. 実施日

2020年8月5日(水)、8月6日(木)

3. 参加人数

1名(他大学教員1名)

4. 施設利用、対応

野辺山ステーション内の種子庫

■京都大学による利用

京都大学が森林土壌における微生物群衆構造と機能との関係を調査するために利用した。

1. 利用目的

森林土壌における微生物群衆構造と機能との関連に関する研究

2. 実施日

2020年10月28日(水)

3. 参加人数

1名(他大学教員2名、大学院生2名)

4. 施設利用、対応

3林班

4) 他学部の利用

■理学部理学科・物質循環学コースによる利用

理学部理学科・物質循環学コースが森林土壌における微生物群衆構造と機能との関係を調査するために利用した。

1. 利用目的

森林土壌における微生物群衆構造と機能との関連に関する研究

2. 実施日

2020年10月28日(水)

3. 参加人数

3名(他学部教員1名、大学院生1名、学部生1名)

4. 施設利用、対応

3林班

5) 学部内利用

■卒論研究および修士論文研究による利用

卒業論文研究および修士論文研究の場として、野辺山農場圃場が利用された。

1) 高冷地生物生産管理学研究室

2) 緑地生態学研究室

3) 植物遺伝育種学研究室

4) 栽培学研究室

5) 野生資源植物学研究室

6) 利用実績

表2 所属機関別利用者数

区分	令和2年度		
	所属機関数	利用人数	延べ人数
学内	2	128	289
国立大学	1	4	4
公立大学			
私立大学	2	4	5
大学共同利用機関			
民間・独立行政法人等			
外国の研究機関			
(うち大学院生)	(1)	(2)	(2)
計	5	136	298

表3 宿泊・日帰り別利用者数

項目	実数	延べ人数	件数
宿泊利用者数	88	249	80
日帰り利用者数	48	49	23
利用者総数	136	298	103

※宿泊利用者は高冷地生物生産管理学研究室所属の学生のみ

(1人1室での利用、十分な距離を取って食事をする、自分が利用した場所の除菌を行うなど、感染対策に留意して利用した)。

7) アンケート結果

本年度の公開実習は新型コロナウイルス感染症発生の影響により、他大学・他学部学生への募集を中止し、信州大学農学部生のみを対象として実施した。

高冷地応用フィールド演習に参加した農学部の学生にアンケートを実施した。

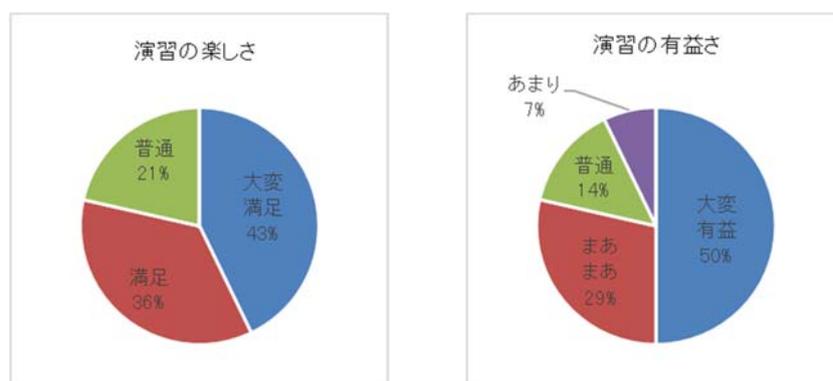
【高冷地応用フィールド演習】

実習日：初回：2020年6月13日（土）

2回目以降は演習時間数を確保して個別に構内農場で実施

回答者数：14名（信州大学農学部生）

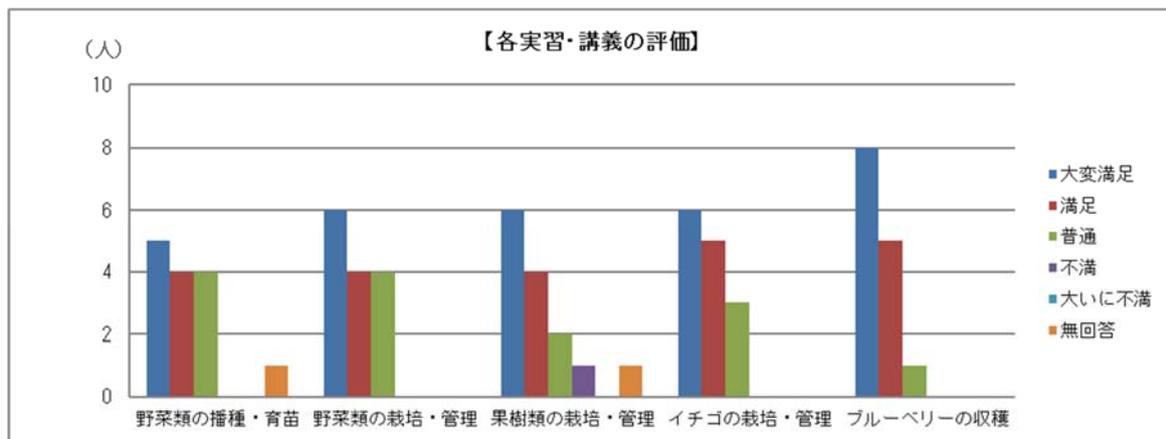
■高冷地応用フィールド演習について



【理由、感想等】

- ・ 普段の授業では行えないような作業などもさせてもらったのでとても楽しめた。
- ・ 普段はラボでの実験が多いため、貴重な体験ができた。
- ・ 農場内で技術指導員さんの仕事を体験できたから。
- ・ 野菜の植え方、イチゴの育苗方法など、知らなかったことを学べた。
- ・ 高冷地での作業ができなかったのが残念だったが、真夏にやる作業も楽しかった。
- ・ 野辺山で実習がしたくてとったため少し残念だったが、キャンパス内の圃場でも十分に農学の技術や知識を得ることができた。
- ・ 実習を通して、農業の大変さと気持ちよさを知ることができた。いやなことを考えずに集中できてよかった。
- ・ アスパラガスの管理という貴重な体験ができた。
- ・ コロナウイルス感染症によって演習が行われなかったかと思ったが、実施していただけてとても感謝している。
- ・ 他コースの内容がメインの実習だったが、様々な植物の育て方に実際にに関わり、学べたため楽しい実習だった。また、指導員の方に私自身が家庭菜園で育てていた野菜の育て方についての相談ができて、勉強になった。
- ・ 農学部ならではのことができて満足。

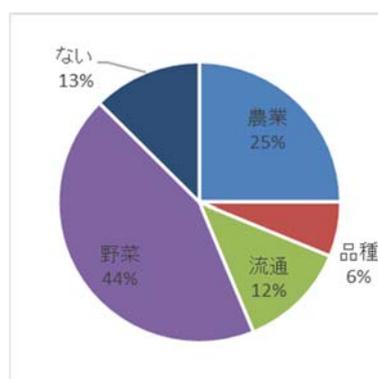
■各講義・実習の評価



【理由、感想等】

- ・楽しい収穫作業に目が行きがち作物栽培の、収穫に至るまでの大変な作業を体験することができた。目につかないところで努力している農家の方は立派だと思った。
- ・特に、いちごの収穫が楽しかった。
- ・野菜の誘引のやり方が分かったから。アスパラの収穫方法を知れたから。
- ・どのような農薬を利用しているか知れたので、実践してみたいと思った。
- ・2年の実習時よりもかなり少人数で作業ができたため、自分が深く携われることがいくつかあってやりがいがあった。
- ・収穫という素晴らしい経験ができてよかった。それを理論だけでなく、実践を通して学べたことが非常によかったと思う。
- ・イチゴの栽培の大変さを、ランナー取りなどを通じて理解できた。
- ・授業で行った内容も多くあったが、アスパラガスの収穫や調整など新たに行った内容も多くあったので有益だった。
- ・これだけ多くの植物の栽培・収穫方法について学べる講義は少ないので、毎回楽しく実習ができた。
- ・普通ではなかなか体験できないことができた。

■演習参加後、興味関心が増大した事（複数回答）



【理由、感想等】

- ・野菜の収穫について知ってみたいと思った。
- ・自分でも同じように栽培してみたいと思った。
- ・実習で行えたのはほんの一部であって、普段は春日先生含め農場の方が管理していることを考えると、知らないことがまだまだたくさんあるのだろうと感じた。
- ・いろいろな作物の収穫などを経験できたため、農業の興味がわいた。
- ・作業量が多く、農作業の大変さを身をもって感じた。
- ・地道な作業を農家さんたちはやっているんだなと思った。
- ・授業で行っていなかったことがあったため。
- ・短かったり大きくなりすぎたアスパラやいろいろな大きさのブルーベリーなどを収穫したが、その後どのように商品になるのか、利用されるのか気になった。

■演習の内容、指導等についての要望、改善点

- ・マンツーマンで指導して下さる時間も多くあり、とても貴重な経験ができた。野辺山での実習もしたかった。
- ・指導していただいた技官さんたちは優しくて楽しかった。コロナが落ち着いたら、高冷地にも行きたい。

3. 参 考 资 料

1. 令和2年度公開実習募集ポスター

令和2年度 信州大学農学部公開農場実習 受講生募集

自然豊かな信州で
フィールド科学を体験しませんか？

高冷地 応用 フィールド 演習

申込締切
2020年
4月23日
(木)

第1回 2020年5月30日(土)

第2回 2020年6月13日(土)

第3回 2020年6月27日(土)

第4回 2020年9月9日(水)～
9月11日(金)

演習の内容

キャベツの生育ステージにあわせ、全4回の演習において以下の内容を実施します。また、高冷地である伊那キャンパスにおいて、リンゴ、ナシ等の果樹類とイチゴなどの蔬菜類を委託に園芸作物の栽培管理を行います。

演習① 日付: 高冷地栽培用のキャベツの種類、伊那キャンパス構内圃場のマルチ張り、果樹類の栽培管理、イチゴ等蔬菜類の管理
① 日付: 高冷地栽培用のキャベツの種類、伊那キャンパス構内圃場のキャベツの定植、果樹類の栽培管理、イチゴ等蔬菜類の管理
③ 日付: 野辺山ステーション圃場のマルチ張り、キャベツの定植
④ 日付: 野辺山ステーション圃場のキャベツの収穫・出荷、生産者視察ツアー、実習報告書提出、農場内付付、キャベツの生育等に関する講義

※天候等により変更する場合があります。
※詳細はWebページをご覧ください。

演習の概要

- 対象: 全国の大学生
- 応募条件: 高冷地及び高冷地農業に興味のある方
- 受講条件: 全4回、全てに出席すること。
※1回のみの参加は可能です。但し、「抽選」の発行はありません。
- 実施場所: 第1-2回 信州大学農学部伊那キャンパス (長野県) (長野県上伊那郡南箕輪村8304)
第3-4回 信州大学農学部野辺山ステーション (長野県南佐久郡南牧村野辺山字二ツ山462-1)
- 宿泊: 第1-2回 自前泊(宿泊なし)
※遠隔地からの参加で、宿泊ご希望の方はお問い合わせ下さい。
- 費用: 第4回 2300円(野辺山ステーション宿泊施設利用)
第1-3回とも、集合場所までの交通費は自己負担
- 定員: 20名
(※応募者多数の場合、応募理由書等により選考)
- 単位: 2単位(特別聴講学生となる場合)

受講希望者は申し込み書類を信州大学農学部学務グループまでご提出下さい(メール提出不可)。

お問い合わせ先: 〒399-4598 長野県上伊那郡南箕輪村8304 信州大学農学部学務グループ
TEL: 0265-77-1309 Email: agakumu@shinshu-u.ac.jp

※高冷地応用フィールド演習は3月中旬に参加募集案内を各大学に配布したが、4月に中止を決定した。高冷地植物・動物・生物生産生態学演習、高冷地先端農業特別演習は他大学向け参加募集案内を作成しなかった。

2. 野辺山ステーション紹介チラシ



信州大学農学部

附属アルプス圏フィールド科学教育研究センター

信州大学農学部 附属アルプス圏フィールド科学教育研究センター(AFC)野辺山ステーション(農場)はH25年8月に教育関係共同利用拠点に認定されました

野辺山ステーション：中部高冷地における農業教育共同利用拠点
 ー高冷地野菜と畜産を組み合わせたフィールド教育ー

環境・施設：標高1,351m 面積21ha 宿泊施設1棟(90名宿泊可能) *野菜、作物、畜産を組み合わせた循環型農業に関する教育・研究
 実施体制：教員5名 技術職員6名 事務職員4名 *他大学の学生・教員が自然環境を利用できる体制の構築
 実習内容：高冷地野菜・作物栽培と繁殖和牛の飼育等 *地域、次世代に還元できる特色ある高冷地フィールドの教育関係共同利用拠点の運営

☆高冷地の環境を利用した教育・研究の展開と提案☆

メインプログラム

- 高冷地植物生産生態学演習
- 高冷地動物生産生態学演習
- 高冷地生物生産生態学演習の開講
(夏期集中、対象学生の異なる3回を実施)
- 高冷地応用フィールド演習の開講(5~9月、全3回)
- 高冷地先端農業特別演習の開講(大学院生対象)

**ハヶ岳山麓 野辺山高原の豊かで厳しい自然と
高冷地農業を学ぶ**





今後、食育、6次産業化に関する教育の場を提供

オープンフィールドの開設 (5月~10月)

【過去の使用例】

- 高原野菜の栽培・管理および収穫
- マメ、ソバ類の栽培、管理
- 野辺山の野生生物の観察、調査
- ハヶ岳の野生生物の観察、調査
- 高冷地(野辺山)農業の調査
- マメ、ソバの加工、利用
- 高原野菜の連作障害の調査
- 緑肥を利用した作物栽培
- 飼料作物の栽培、管理





*利用案内・支援助

- HP：詳細な施設紹介、予約カレンダーの掲載、実習開講情報の公開
- プログラムの提案・提示
- コーディネーターによる相談・受付

お問い合わせ先：
 〒399-4598 長野県上伊那郡南箕輪村8304
 信州大学 農学部 附属施設係
 Tel：0265-77-1325 Fax：0265-77-1315 E-mail：afc_infor@shinshu-u.ac.jp
 HP：http://www.shinshu-u.ac.jp/faculty/agriculture/institutes/afc/

野辺山ステーションを是非ご利用ください！

自然豊かな野辺山高原で信州ならではの実習や
自然観察会、サークル合宿等にご利用いただけます。











主な施設・設備

宿泊可能人数：最多90名
 宿泊部屋数：和室8室、洋室9室(2段ベッド)
 シャワー室、洗濯・乾燥室、トイレ(各男女別)
 厨房・食堂(宿泊者共用、自炊用品完備)
 講義室(1)：40名収容、講義室(2)：30名収容、無線LAN

主な利用目的

農業体験学習
 研究のための農場、演習林利用(オープンフィールド)
 収穫物を利用した食育プログラム
 自然観察会
 学生交流事業

周辺施設

国立天文台 野辺山宇宙電波観測所
 筑波大学ハヶ岳・川上演習林
 JA長野ハヶ野辺山集荷所
 観光牧場

※各施設の見学等のご相談・ご要望には、可能な限り対応いたします。

※野辺山ステーション紹介ページはこちらから



お申込み
お問い合わせ

信州大学農学部附属施設係

〒399-4598 長野県上伊那郡南箕輪村8304
TEL:0265-77-1325 FAX:0265-77-1315

野辺山ステーションは、文科省から 教育関係共同利用拠点の再認定(H30~34年度)を受けました。

メインプログラム

高冷地植物生産生態学演習
高冷地動物生産生態学演習
高冷地生物生産生態学演習
(夏期集中, 対象学生の異なる3回を実施)

耕畜連携農業体験
「高冷地野菜生産」
と「食育」の融合

高冷地応用フィールド演習
(5月~9月, 全3回)

6次産業化生産技術
の習得

H30年度新設
大学院生対象

高冷地先端農業特別演習
(夏期集中, 大学院生(修士課程)対象)

ドローンを用いた生
産管理技術の構築

オープンフィールドの開設

【使用例】

- ・高原野菜の栽培・管理および収穫
- ・マメ, ソバ類の栽培, 管理
- ・野辺山・ハヶ岳の野生生物の 観察, 調査
- ・高冷地(野辺山)農業の調査
- ・高原野菜の連作障害の調査
- ・緑肥を利用した作物栽培
- ・飼料作物の栽培, 管理

Newプログラム(H30年度~)

- ・反刍家畜「ヤギ」の飼養管理
- ・高冷地での夏秋イチゴの栽培

主な施設・設備

利用可能期間: 通常期間5月1日~10月31日
冬期期間11月1日~4月30日
宿泊可能人数: 最多90名(冬期期間は15名)
宿泊部屋: 和室8室, 洋室9室(2段ベッド)
シャワー室, 洗濯, 乾燥室, トイレ(各男女別)
厨房・食堂(宿泊者共用, 自炊用品完備)
講義室(1): 40名収容, 講義室(2): 30名収容, 無線LAN

講義・実習以外の利用実績

農業体験学習
研究のための農場, 演習林利用(オープンフィールド)
収穫物を利用した食育プログラム
自然観察会
学生交流事業

周辺施設

国立天文台 野辺山宇宙電波観測所
筑波大学ハヶ岳・川上演習林
JA長野ハヶ岳野辺山集荷所
観光牧場

※各施設の見学等のご相談・ご要望には, 可能な限り
対応いたします。

改修により、さらに使い易くなった野辺山ステーションを是非ご利用ください！

	H30年度～	改修前
利用可能期間	通年利用可	5月1日～10月31日
宿泊可能人数	5月1日～10月31日 90名 11月1日～4月30日 15名	50名
講義室	講義室(1) 40名 講義室(2) 30名 ※講義室(2)は天井吊下げ式 プロジェクター完備	60名
調理室		
食堂		
講義室		

その他の施設整備	
	レンタル布団に変更(羽毛) ベッドサイドに携帯電話充電用 コンセントを設置
	シャワー室および2階洗面室に ドライヤーを設置
	男女トイレ改修
	ヤギ舎を新設(H30)
	夏秋イチゴ栽培場を新設(H30)

お問合せ先: 信州大学農学部附属施設係
Tel: 0265-77-1325 Fax: 0265-77-1315
E-mail: afc_infor@shinshu-u.ac.jp HPIはこちらから



令和2年度教育関係共同利用拠点事業（野辺山農場）報告書

令和3年3月

編集 国立大学法人信州大学農学部附属

アルプス圏フィールド科学教育研究センター

発行者 国立大学法人信州大学農学部附属

アルプス圏フィールド科学教育研究センター

〒399-4598 長野県上伊那郡南箕輪村 8304

TEL 0265-77-1300

FAX 0265-77-1315

URL <https://www.shinshu-u.ac.jp/faculty/agriculture/>

<https://www.shinshu-u.ac.jp/faculty/agriculture/institutes/afc/>

MAIL afc_infor@shinshu-u.ac.jp
